

職場の みんなが応援

伊方保育所職員



伊方町内には保育所が7施設あり、保育士さんの需要は常にあるそう。基本は公務員としての採用になりますが、子育て中の方などは臨時採用や時短勤務も可能。紗希さんの勤める伊方保育所では20代から60代まで、幅広い年齢層の職員が働いていますが、職員同士の仲の良さは自慢。「良い人間関係があるお蔭で、職場の雰囲気は抜群。その雰囲気が子どもたちをのびのび育てることができていると思っています」。有資格者のUターンを大歓迎。ともに元気な伊方っ子を育みたいと願っています。

安心した 子育て支援制度

中学校卒業までの入院・通院の医療費のうち、保険診療の自己負担分を全額助成します。また、愛媛県内トップクラスの保育料の安さに加え、第3子以降の児童に係る保育料を基準額の1/3に軽減するほか、出産子育て費用の負担軽減を図るため、第3子以降の出生児1人につき、総額100万円を支給するなど、子育てに適した環境が整っています。



元気いっぱい園児たちをやさしく育む紗希さん。「子どもたちと一緒に、自分も成長していきたい」と瞳を輝かせます。じもと出身ということで、職場にもすぐ馴染むことができ、卒園した子どもたちの様子を知ることができるのも喜びとなっています。



保育士になるために、松山の短大に進学した井上さんは、卒業後、伊方町の保育所に就職しました。そのまま松山で働くことも考えましたが、「仕事をしながらきちんと家のこともやっていく自信がなくて。実家に帰れば、生活面は家族にフォローしてもらえらから」とUターン。慣れ親しんだじもとの生活は、彼女が思っていた以上に快適。職場の先輩や園児の保護者の方など、顔見知りの方が多く、すんなりと社会人生活に溶け込むことができたとか。また松山からのアクセスが良いので、折に触れて行き来し、大学時代の友人たちとも交流が続いています。

「休日には松山で、シヨックピングやカフェめぐりを楽しむことも多いです。ただ普段はお金を使う場所もないので、しっかり貯金もできています」とにっこり。あたたかな伊方の人たちに囲まれて、時々松山の空気を吸いながら日々成長している井上さんです。

03
灯台じもと
暮らしの人々
保育士
井上紗希さん
(22歳)

あたたかい人たちに囲まれたじもと暮らし。
顔見知りの方が多く、
すんなりと社会人生活に。